

市民情報プラザと IR



大阪市役所 1 階に市民情報プラザがある。大阪市の資料をチェックするために、定期的に通っている。最近「パブリックコメント」関係の棚に注目している。今年 1 月 10 日に来たとき、たまたま港湾計画改訂のパブコメをここで知った。万博の会場予定地夢洲の開発にも関わるものだ。資料をコピーして、帰宅してから知人に知らせたが、知らない人が多かった。パブコメの期間は、なんと御用納めの前日から、年明け 16 日までとなっている。こうした期限の設定にも腹をたて、「意見書」を送った。それ以来、油断ができないと考えて、パブコメ棚をチェックするようになった。

このプラザはいつ行っても席が空いており、静かなので思索に耽り、原稿を書いたりしている。市役所のなかの貴重な居場所であるが、残念ながら資料が少ないし、新しいものが補充されていない。先月末に行ったとき、気になっていた IR 関係の資料棚を探したが見つからなかった。顔なじみの受付の人に聞くと、新しい局なので棚は設置していないという。IR 推進のため「ギャンブル対策」に力を入れているはずなのに、これはおかしいと考えて、「市民の声」を書き投函した。

すると先日、大阪府の封筒に入った IR 推進局から手紙が届いた。最初、なぜ大阪府なのかと疑問に感じたが、大阪府市一体の局で大阪府咲洲庁舎に局があるからだという。電話でも話したが、担当者によると、私が書いた「市民の声」により、すぐ IR 推進局の棚をつくり、資料を閲覧可能にしたとのこと。それを確かめるためにプラザに行き、写真に撮っておいた。「市民の声」がこんなに早く届くのは珍しいらしい。早く改善されたのは喜ばしいが、高校生向けリーフレットに、ギャンブルは「娯楽」などと書かれており、また腹が立ってきた。IR 基本構想案のページをめくると、IR 収益の 8 割はカジノからと書かれている。IR は経済的にはカジノであり、それを頼りに万博を開催して、経済振興を図るのは筋違いではないかと、ここでも怒りが湧いてくる。



大阪市では橋下市長の時代から「紙」資料を減らし、ネットに集約させてきたという。だがネットを利用できない人、利用しない人も多い。私のようにネットを利用する者も、「紙」資料を活用している。冊子として製本された資料も欲しいが、有償販売コーナーには資料がほとんどない。自治体へ調査に行くと、時間もないので資料を買って帰る。大阪市に調査に来た人は、こんな状況をどう思うだろうか。大阪府も大阪市と同じく、資料コーナーは貧弱だ。ここにも大阪府市の似通った傾向が見られる。府市一体をいうなら、行政資料を一堂に会した「大阪府市行政資料室」を設けてもらいたいものだ。

とにかく、維新は大阪府市の行政を変えろと言いが、府市民に対してきちんと情報を伝えているのか。そういえば大阪市広報も廃止され、「区政だより」だけに。こんなところも、大阪市「くせーい」と言いたくなる。またプラザにぷらっと行ってみよう。

(2019 年 4 月 20 日)